

食のコミュニケーション円卓会議の勉強会を振り返って

元保健所食品衛生監視員 小暮 実

私は、1978年(S53)に中央区保健所に食品衛生監視員として採用され、以来39年間食品衛生監視員として勤務しました。中央区には、繁華街である銀座、大手食品企業のある日本橋、水産関連企業の多い築地などがあり、食中毒事件はもちろん輸入食品の違反処理など、食品衛生監視員としては大変有意義な経験をすることが出来ました。

円卓さんとの接点は、まだ現役の頃、2012年に元味の素の天明さんの紹介で「食の衛生現場」からと題して勉強会でお話しさせて頂いたのが初めてだったと思います。前年の2011年3月に福島原発の事故があり、食品への放射性物質の残留が喫緊の課題となっていました。厚生労働省では、1週間後には食品への暫定規制値を設定しました。この暫定基準値の考え方については、朝日新聞(本社が築地)の記者が「飲食物摂取制限に関する指標」の資料を持参して、保健所に相談があったため大慌てで勉強しましたが、大変難解だったことを良く覚えています。

円卓さんでの勉強会は、放射線照射やGMOなど難しい話についても、アットホームな雰囲気ですぐに解りやすく勉強することが出来るため、その後も参加させて頂いています。2013年には、電解水を含めた殺菌・消毒剤の話をして頂きました。また、2016年には日本原子力産業協会のパンフレットの作成でも仲間に入れて頂きました。2017年に保健所を退職した後、2018年に食品衛生法が大改正されたことから、HACCP制度化や食品リコールについても何度かお話しさせて頂きました。2025年4月には電解水を含めた食品添加物行政の歴史について、また10月には令和の米騒動についてお話しさせて頂きました。

保健所の食品衛生監視員は、自分自身の専門ではない部分についても、消費者や食品事業者に解りやすく説明することが求められます。足掛け40年間、興味のある話であればアチラコチラに顔を出して情報交換するとともに教を乞うてきましたので、退職してもなお性分が変わりません。現在も、食品衛生アドバイザーとしての仕事の他に、NPO食品保健科学情報交流協議会(食科協)、NPO食の安全と安心を科学する会、NPO食の安全と微生物検査などのお手伝いもさせて頂いております。

円卓さんのHPの「食品衛生」を担当していながら、何も資料を提供できないことには大変申し訳なく思っているのですが、自分なりに納得できるものから提供したいと思っています。食の安全・安心については、様々な事件が報道されていますが、案外報道されない身近な食品衛生が大切なこともあります。(例:お尻の拭き方とノロウイルス汚染など)

食の安全・安心については、日本人が食の「質」ばかり課題として、食の「量」についての検討が不十分だと危惧しています。放射線照射、食品ロス、GMO、令和の米騒動、細胞培養食品などの勉強を通して、食糧の安全確保についても、もっと目を向けていきたいと思っています。